

■ 人間学部

ー ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

知識・技能	①専門的な知識と実践を適切に融合させることにより、人間及び社会に関する学問的な基礎能力を適切に身につけている。 ②人間学部で学修する諸科学の専門的知見及び活用するための方法論について正しく理解している。
思考・判断・表現	③自らの考えを根拠に基づいて論理的かつ的確に表現することができる。 ④自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考ができる。 ⑤知識集約型社会を見据えて、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。
関心・意欲・態度	⑥学修した学問領域を今後の職業生活や地域生活で積極的に活用し、広く社会に貢献することができる。 ⑦持続可能な社会の実現を目指し、多様な課題の解決を担う人材として積極的に関わる姿勢を身につけている。

ー カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育内容	①現代社会における今日的課題に対し、主体的に考え行動する能力、多様な価値観を尊重しつつ他者との協働により解決に導く能力を養うための科目を各部門に配置する。 ②専門科目群では、人間及び社会に関する諸科学を体系的に習得するため、学部共通科目、基礎科目、専門科目を系統的に配置する。 ③基礎部門として、専門分野の基礎となる知識を習得する講義科目、学修の基礎技能、論理的な思考と表現力を養成する演習科目を配置する。また、専門部門として人間及び社会に関する専門性の高い知識・知見を修得する講義科目、獲得した知識・知見を活用して実証的・実践的に学修する実習・演習科目を体系的に配置する。 ④資格取得に必要な科目群を適切に配置し、十分な水準を満たす質の高い人材を養成する。
教育方法	①講義科目と演習科目について、他者との協働により問題解決と深い理解を可能にするため、学生相互によるアクティブ・ラーニングとピア・インストラクションを積極的に活用する。 ②少人数教育による学修の長所を最大限に活かし、全ての学年において個々の学生に対する目配りを意識した演習形式の授業を展開する。
評価	①カリキュラム改善を目的として学生に対する調査及びFDを定期的の実施し、本学部における教育活動、学科における教育課程の状況について把握・評価する。 ②ディプロマ・ポリシーの各領域に示された資質・能力について、その水準と達成状況を卒業論文及び卒業研究における口述試験によって評価する。

― アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

知識・技能	①人間学部教育内容を理解できるように、高等学校の教育課程において学習した基礎的な知識・技能を修得している。
思考・判断・表現	②物事を順序立てて理解、考察し、自らの意見をわかりやすく丁寧に述べることができる。 ③現代社会における多様な考え方や価値観を受容し、尊重することができる。
関心・意欲・態度	④人間と社会にかかわる多様な課題に対して深い関心を持ち、その解決に積極的に関わる意欲を有している。 ⑤他者の考え、社会に存在する多様な価値観を理解し、行動する姿勢を持っている。

■ 人間科学科

― ディプロマ・ポリシー(DP)

人間科学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、人間科学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能	①「Life（人びとの人生・生活）」に関して社会学・心理学及び身体科学の観点から領域横断的な知識を有している。 ②人間科学に関する実験・調査・観察等の技能を身につけ、「Life」について科学的にアプローチすることができる。
思考・判断・表現	③「Life」について複眼的に思考し、それに基づいて判断できる。 ④根拠に基づいて論理的に表現することができる。 ⑤知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。
関心・意欲・態度	⑥「Life」に関する多様な課題に関心を抱き、自ら調査・分析し、解決しようとする意欲を有している。 ⑦今日的な課題に対して、時流にとらわれることなく、主体的な態度で向き合うとともに他者と協働して解決しようとする姿勢を身につけている。

― カリキュラム・ポリシー(CP)

人間科学科は、ディプロマポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	①基礎部門は、人間科学を体系的に学んでいくための基礎的な科目により構成する。「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、「Life」を複眼的に考察する人間科学の現代社会におけるテーマを題材とし、「読む」「書く」「聴く」「話す」の基礎技能を修得し、根拠に基づいて論理的に表現できる能力を育む。また、社会学、心理学及び身体科学について、それぞれの入門段階の基礎知識を修得するための科目を配置する。 ②研究法部門では、「Life」を複眼的に理解するために、社会学、心理学及び身体科学の研究法を専門的に学び、実験・調査を通して、科学的な手法に基づいた調査研究が実施できる技能を修得する。研究法を理解し、実践するために、各学術分野の研究法、統計学、実験・調査を系統的に学ぶことによって、仮説を立て、データを収集し、実証する技能を養う。心理学における科目群は認定心理士取得の主要科目となり、社会学における科目群は社会調査士の主要科目としても位置付けられる。 ③専門部門は、「人間発達科目」「現代社会生活科目」「演習科目」から構成される。「人間発達科目」「現代社会生活科目」では、人間が受胎してから死に至るまでの変化、あるいは現代社会における様々なテーマについて社会学、心理学及び身体科学から領域横断的に学ぶことにより、そのあり様を理解する。「演習科目」では、人間科学における実証的な研究を行うために必要な論文を読み、「Life」に関する課題に対して、仮説設定、データ収集量的・質的な分析、考察という科学的な研究を学生が主体的に行うことにより、学術研究の基礎技法を修得する。 ④基礎部門、専門部門における所定の科目を履修することにより、社会調査士、認定心理士、認定心理士（心理調査）の資格を取得することができる。 ⑤卒業論文では、①～④の学習を踏まえて、「Life」に関する今日的な課題について自ら問いを立て、実験・調査等の科学的な手法を用いてデータを収集し、論理的に問いへの解を導く。
教育方法	①アクティブ・ラーニング：演習科目（基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、心理学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習Ⅰ・Ⅱ、身体科学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱ）を中心として、他者との協働によって問題解決に取り組んだり、発表したりする機会を設ける。 ②少人数教育：演習科目や卒業論文の個別指導等において、専門的な知識や技能を身につけるために少人数の学習を行う。専門演習Ⅰ・Ⅱ、心理学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習Ⅰ・Ⅱ、身体科学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱが該当する。卒業論文については、その学習成果を概要集としてまとめたり、発表したりして表現する。 ③ピア・インストラクション：演習科目や講義科目において、学生同士が互いの理解を深め合い、他者を尊重する姿勢を育むために、学生同士で学び合うピア・インストラクションを活用した教育を提供する。 ④演習：基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、心理学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習Ⅰ・Ⅱ、身体科学実験基礎演習Ⅰ・Ⅱを通して、領域横断的な基礎知識を、より専門的で現実社会においても活用できる知識・技能に深化させる。社会調査演習では、調査を通して地域状況の把握をするだけでなく、報告書を国立国会図書館に納付し、地域・社会の総合的な発展に寄与する機会を創出する。

評価	①4年間の総括的な学習成果については、卒業論文に対する口述試験を通して担当教員がDPで示された資質・能力の達成状況を評価する。 ②卒業時には、カリキュラム改善の指標とするため学生生活全般に対する調査を実施し、カリキュラムを漸次的に見直す。 ③学科教育については、本学科の学びの特徴に応じたカリキュラムアセスメントを実施し、随時改善する。
-----------	---

一 アドミッション・ポリシー(AP)

人間科学科は、ディプロマポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能	①人間科学科の教育内容が理解できるように、高等学校の教育課程において学習した基礎的な知識・技能を有している。
思考・判断・表現	②物事を順序立てて考えることができる。 ③なじみのないテーマであっても、情報を整理することによって理解し、自ら意見を述べることができる。
関心・意欲・態度	④身近な人たち、異なる文化や価値観を持つ人々の生活や人生に多面的な関心を抱いている。 ⑤家族や学校・地域・職場で生じている問題や、文化・環境・メディア等のあり方に関心を抱いている。

■ 社会福祉学科

一 ディプロマ・ポリシー(DP)

社会福祉学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、社会福祉学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能	①福祉マインドを持つ人材としての思想や指針となる理論、支援に役立つ知識・技術を理解するために必要な読解力、記述力及び学びの方法を身につけている。 ②地域共生社会の実現に向け、社会福祉学の価値・知識・技術を人と社会に対する支援に活用する方法を身につけている。
思考・判断・表現	③学んだことを生かして、自らの生き方及び果たすべき役割や責任について考察を深めることができる。 ④社会福祉学領域の研究や方法を通じて、地域社会や身近な人々の間で生じている問題を発見し、その解決方法を判断し、改善を図ることができる。 ⑤学んだ知識について、自らの考えを他者に対して的確に表現することができる。 ⑥知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・ 態度	⑦社会福祉学の学びから学習や研究課題を設定し、主体的に取り組む姿勢を有している。 ⑧他者と協働し、共生社会構築の役割を担う意欲を持っている。 ⑨多様な人々の価値観を受け止め、円滑な人間関係を築き、チームアプローチにより目標達成に向けて努力することができる。 ⑩グループの特性に応じて、適切なリーダーシップやメンバーシップを発揮する姿勢を有している。 ⑪自分自身の言動を振り返り、意識的な変容の意図のもと、自身の成長につなげることができる。 ⑫社会福祉学の価値・知識・技術を理解し活用できるよう、日々成果を蓄積しようとする意欲を持っている。
----------------------	---

ー カリキュラム・ポリシー(CP)

社会福祉学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、社会福祉学固有の能力と、市民性を涵養するジェネリックスキルをもつ人材養成に向けて、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	①基礎部門では、社会福祉学の基盤となる価値や理念を理解するための基礎的な知識、思考力・判断力・表現力を養成するために「社会福祉原論Ⅰ」「基礎ゼミナール」を配置する。また「大学入門」「ソーシャルワーク論Ⅰ」等では、福祉人材の多様な在り方を示すことで、学生が資格取得や取得する資格の種類について主体的に考える機会を提供する。 ②社会福祉学及び関連領域の蓄積された知見に基づき、福祉マインドを備える人材となるための価値・知識を学修する科目群を専門部門に配置する。具体的には社会福祉士、精神保健福祉士の養成課程に加え、資格を取得しないが地域共生社会構築に貢献する人材育成に関わる科目も配置し、学生の適性に関心に基づく学修の機会を提供する。 ③社会福祉専門職としての技能を獲得するために、基礎部門および専門部門で学修した価値、知識を実践的に学修する実習・演習部門を配置する。 ④学問の方法やアカデミックな倫理を定着させ、実践的・論理的・創造的な研究活動を表現するために応用部門を「プロジェクト研究（Ⅰ～Ⅳ）」として配置する。 ⑤卒業論文、卒業研究は、基礎部門、専門部門、実習演習部門、応用部門のすべての学修を踏まえ、地域共生社会構築のための問いを立て、具体的な解決方法を検討し、言語化する。各部門で学修した成果を統合し、研究成果として完成させることで、福祉マインドをもつ人材としての能力を醸成する。 ⑥国家資格（社会福祉士、精神保健福祉士）の受験資格取得に必要な指定科目を基礎部門、専門部門、実習演習部門に配置する。全ての科目は、社会福祉士、精神保健福祉士の養成に十分な水準を確保する。
教育方法	①サービス・ラーニング：「基礎ゼミナール」では、地域共生社会形成に貢献する市民性涵養の基礎力をつけるため、豊島区内の社会資源と連携し、地域社会との協働に基づくサービスの経験を通じた学修を行う。 ②アクティブ・ラーニング：「ソーシャルワーク実習指導」「ウェルビーイングゼミナール」「インターンシップ」では、自らの関心に基づき学習の主体となって、情報を集め、計画を立て、実

	施し、振り返る PDCA サイクルに基づく学修が基本となる。その学修過程で計画や実施評価について、積極的に学生同士や教員、実習指導者とのディスカッションを行い、自らの学修に関して気づく機会を提供する。 ③プロジェクト・ベースド・ラーニング (PBL) : 「プロジェクト研究 (Ⅰ～Ⅳ)」は、学問の方法や研究倫理等を踏まえ、課題解決を志向した実践的・論理的・創造的な研究活動をゼミナール形式で2年間を通じて進める。 ④当事者との積極的な協働：サービス・ラーニングや実習・演習科目だけでなく、講義科目も含めて積極的に当事者、活動家、実践者をゲスト講師として招聘し、具体的かつ現実的な知識の教育の機会を提供する。これは具体的な学修の機会の提供だけでなく、当事者や実践者と協働して教育を行うことで、より効果的かつ実践に即した学修方法の検討や実践と理論の乖離を軽減することも意図している。
評価	①4年間の総括的な学修成果として卒業研究を課し、その成果を発表する場として口頭試問審査発表会を開催する。グループで協働・分担したプロセスや作成した成果物に対しては、複数の教員の合議に基づき、DPの達成状況を総合的に評価する。 ②カリキュラム改善のため、学期ごとに学生の成績や授業への参加態度を確認するほか、卒業時にはカリキュラムループリックに基づくアンケートを実施し、教育内容や方法の見直しを行う。また、DPに基づいた教育活動を、効果や効率的観点を踏まえながら組織的に推進する。

一 アドミッション・ポリシー(AP)

社会福祉学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能	①社会福祉学科の学びに必要な基礎的な知識を有している。 ②高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・外国語について内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ③課題を的確に理解し、その解決のために必要な情報を集めることができる。
思考・判断・表現	④物事を順序立てて考えることができる。 ⑤多様な考え方を自分なりに整理し考察することができる。 ⑥自分の考えを口頭や文章でわかりやすく伝えることができる。 ⑦多様な考えや価値観を受け入れ、尊重することができる。
関心・意欲・態度	⑧文化や歴史、人間の生活に関わる様々な問題に対して、深い関心を持っている。 ⑨自らの学びを通じて人々や地域社会に積極的に関わっていこうとする意欲を持っている。 ⑩読む・書く・話す・聴く能力の向上と、わかりやすい表現方法の習得に意欲を持っている。 ⑪他人の立場に立って物事を考え、行動する態度を有している。 ⑫人と心を通わせ、協力して目標を達成する姿勢を有している。